



みどりの風

令和5年3月1日発行
校報 605号
(みどりの風 148号)
練馬区立関町北小学校

命を育む幸せを実感して「我が子同然」に慈しむ

校長 吉川 文章

命の誕生(抜粋)

我が家に新たな命(次女)が誕生しました。今か今かと待ち望んでいたことです。皆さんに「おめでとう。」と声をかけてもらったこと、心からうれしかったです。また一つ、宝ものの思い出が増えました。

名前は「輝かしい人生を送ってほしい。」「容姿だけでなく、心も美しい子に育ててほしい。」という願いを込めて付けました。皆さんに「かわいい」と言ってもらえて、これまたとてもうれしかったです。

長女が誕生したとき、本当の意味で親の気持ちを理解したような気がしました。同時に「自分が担任をする子どもたちも一人一人、こんなにも誕生したことを喜ばれ大切に育てられてきた命なのだ。その命を預かっている仕事なのだ」と。

次女の誕生では、たくさんの「感情」が誕生していると感じました。親の笑顔、じいじ、ばあばの笑顔、新しい喜び、新しい希望、親としての責任、家族を守る父としての気持ちなど。多くの感情の誕生とともに、新しい覚悟を与えてくれました。「この子の幸せのために生きたい」「どんなことも家族のために乗り越えよう」そんな風に強く思います。

改めて理解すること。それは、皆さんが同じようにお家の方に思われていること。私は、そんな大切な一人一人の毎日を預かる仕事をしていること。やはり、半端な覚悟ではできない仕事だと思わされます。幸せな仕事だと思わされます。

次女の誕生は、私自身が幸せ者だということも教えてくれました。皆さんが自分のことのように歓喜の声をあげ、喜んでくれたこと、とても幸せでした。同学年の二人の先生は「奥様とお子さんの無事を願っています。学校のことは気にせず任せてください」「私も、無事に生まれて嬉しいです」と言ってくれました。校長先生は、「家族のことを一番に考えて、いつでも休みなさい」と言ってくれます。副校長先生は「その日は仕事が手につかない」と言ってくれました。

学校に行くと、黒板に皆からのメッセージ。うれしかったなあ。その日は関北の先生方に「おめでとうございます」とたくさん声をかけてもらいました。次女の誕生は、「娘が生まれてうれしい!」という気持ち以上に、「今、私は幸せだな。」と感じさせてくれました。

命の誕生って、本当に尊いことだなあと思いました。あなたたちを担任しているときに次女が誕生してくれてよかったなあと思いました。二人の先生と学年を組んでいるときに、関北に勤めているときに誕生してくれてよかったなあと思いました。私は、自分が世界一幸せ者なのではないかと思いました。笑

生きていてよかったです。今生きている全ての命に感謝します。今日まで何度も言ってきましたが、改めて、次女の誕生に寄せて、声高らかに宣言します。あなたたちを、我が子と違って育てます。

これは、本校のある先生がお子さまの誕生に際して感じた感謝や愛おしさ、幸せを、子供たちや保護者の方々に伝えた学級通信の抜粋です。家族の誕生をこのようにつづさに表現して喜びを分かち合う姿勢は教育者として人間として素晴らしいと感じます。また「全ての児童を我が子当然」の思いを体現されていることを校長として嬉しく誇らしく思います。

4月から本校の教職員やご家族に6人もの新しい命が誕生しました。本校は、仕事とプライベートを共に充実するためのシンボルとして「イクボス宣言(ホームページ掲載)」を掲げています。「教師は子供の鑑」先生がプライベートも充実して自ら幸せを実感して仕事に打ち込めることは、間違いなく子供たちの成長や幸せに結びつくと考えています。

年度の締めくくりに際して、ぜひ、このエピソードを保護者の皆さまにも共感をしていただきたいと思い掲載をいたしました。そして次の学年への進級や進学への追い風としてまいります。

本年度の教育活動へのご理解ご支援、本当にありがとうございます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。